



「秋保の湯1500年の歴史あり」

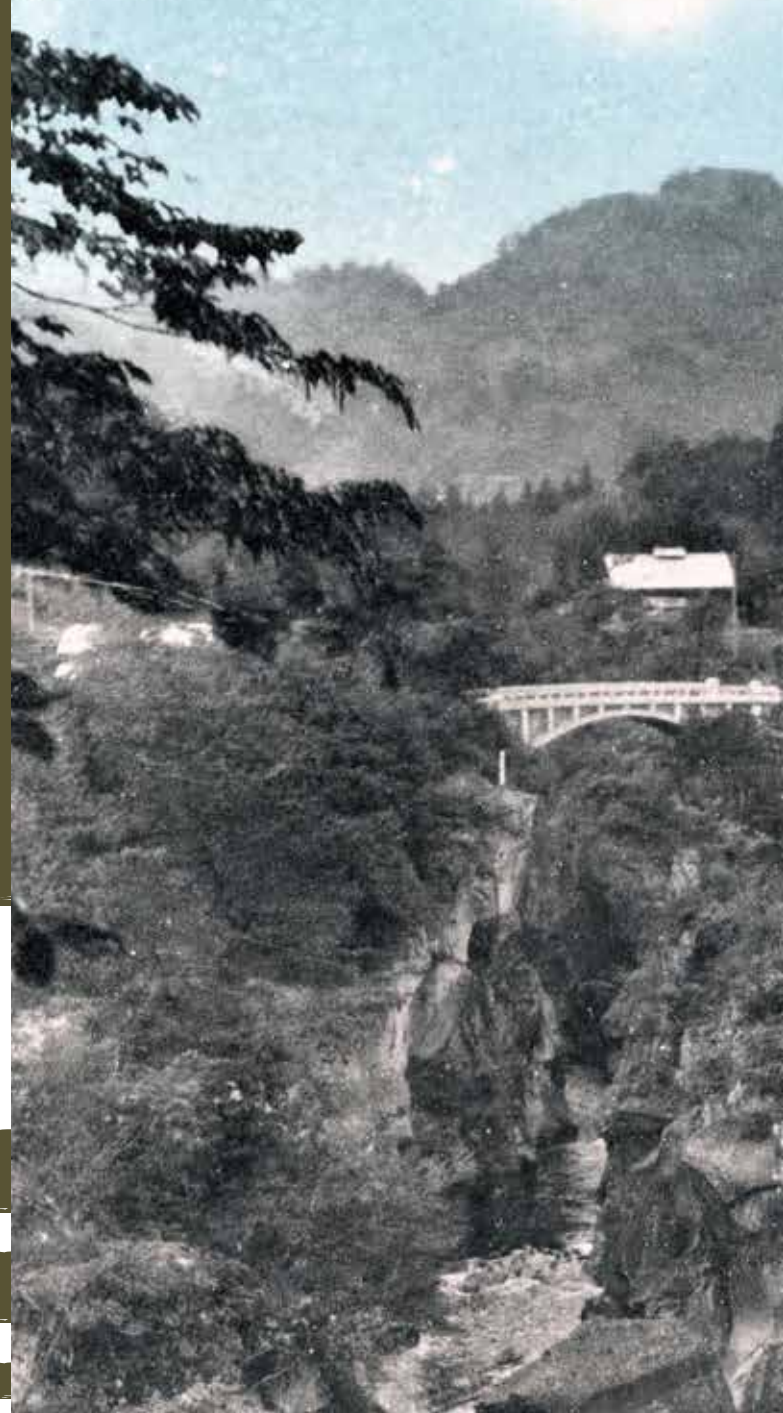
今般、秋保地域資源活用委員会のメンバーが70～80年前の秋保温泉に関わる絵はがきを集めました。このパンフを片手にレトロな風景を想像しながら、昔の人々がどんな想いで訪れていたのか、思いをはせつつ歩くとまた新たな磊々峡の物語が見えてきます。

名取川を流れる水の音、小鳥のさえずりや匂いなど、静かで迫力に満ちた磊々峡の情景は、現在もそのままです。

さあ、古の写真を見ながら、磊々峡の今昔に思いを巡らし、景観ポイントを回ってみませんか。



古の絵はがきで辿る 磊々峡めぐり



いってみっぺ 秋保

古の絵はがきで辿る 磊々峡めぐり

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

絵はがきに刻まれた古の磊々峡
昔も今も変わらない、名取川が作り上げた
断崖絶壁の峡谷美、当時に思いをはせながら
たどり歩きをお楽しみください



1 湯向から温泉中心部を臨む



自然や歴史、温泉保養などとともに、仙台市民の憩いの場、磊々峡の奇勝資源と調和した温泉郷として更なる発展が期待されます。

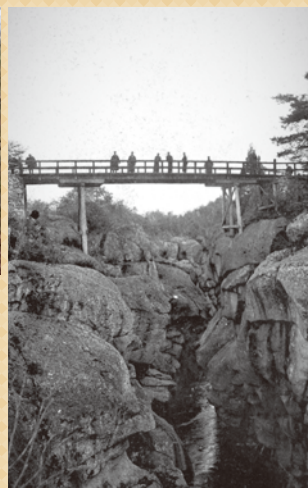


2 視橋(木製)

脚が写っています。橋の上には、覗き淵を眺める人々が並び、自慢の観光資源だったことがわかります。



年代の詳細は不明ですが、画像として最も古いと思われる視橋の写真で、垂直のシンプルな橋



当時は川床に降りることができたと云われこのアングルからの風景は今も貴重です。



左の橋と比べると橋脚に斜めの補強材が入っており、より強化された視橋ではないかと思われます。



2 視橋(鉄骨&コンクリート製)

増水で流される心配はなくなったと云われ、それでも何度か橋の上まで水が上がった時もあったという逸話が残っています。



今の橋の前にかかれていた視橋です。鉄骨とコンクリートの組み合わせで、車両の通行が容易になりました。

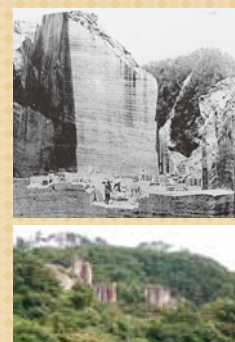


拡大

秋保全体図



9 秋保石採掘場



現在残されている秋保石採掘現場は、当時より大きく変貌を遂げているため、どこからのものか解りませんが、はがきには秋保石採掘現場と記しています。当時は秋保温泉の風景に採石の様子があったということが分かります。秋保石は現在も採掘中です。

古の絵はがきで巡る 磊々峡めぐり

磊々峡自然歩道は、東西約2.4km、秋保・里センターを起点にゆっくり歩くと約90分ほどかかります。地図上の番号は、絵はがきを撮影したポイントと思われる場所です。



3 時雨滝



見てたえのある時雨滝、また樹木が大きくなく、水量の豊かさが映える一枚です。今でも長雨の後であれば、これと同じように迫力ある滝をこのとがで

4 八間巖の見晴し



椅子に座って時雨滝や八間巖を眺めているのか、ゆったりとした雰囲気を出している。磊々峡は昔から秋保温泉にはなくてはならない癒しの散策路だったと思われる。

5 上流側から東屋・猪飛巖を臨む



巖の重なり合い、狭まり合いが織りなす磊々峡の類まれな峡谷の特徴が出ているカット。東屋がその景観を豊かにしてくれています。

6 東屋から上流を臨む



東屋からは、ゴロゴロとした大きい秋保石の間を流れる名取川が臨めます。現在は、ここに東屋があり、新緑・紅葉・雪景色など昔と変わらない趣ある風景が広がります。

7 天斧巖の河原から猪飛巖を臨む



名取川で一番川幅が狭い場所、河原から見上げる迫力に満ちた磊々峡自慢のアングル、昔から壮観であったということが分かります。競り合う巖幅は、地元ではわずか一間とも伝わっており、猪が飛んで渡ったといいます。…ほんとかなく。

8 県道張出歩道から上流を臨む



ホテル瑞鳳の名取川向い、現仙台山寺線秋保街道の歩道付近から上流の天斧巖付近を撮った景観、広々としたこの空間も今も変わりなく穏やかできれいです。